

『毒物劇物取扱者 短期合格テキスト 第3版』お詫びと訂正のお知らせ

弊社出版物「毒物劇物取扱者 短期合格テキスト 第3版」をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書の内容に誤りがございました。この度はご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。訂正してお詫び申し上げます。

頁数等	内 容	
19 ページ	誤	● 登録票又は許可証の書換え交付 [施行令第36条]
	正	● 登録票又は許可証の再交付 [施行令第36条]
19 ページ	誤	④再交付を受けた後に失った登録票等を発見したときは、都道府県知事に返納すること。[施行令第36条の2]
	正	④再交付を受けた後に失った登録票等を発見したときは、都道府県知事に返納すること。[施行令第36条第3項]
23 ページ おぼえる！ポイント	誤	▪ 製造業者と輸入業者が、登録を受けた毒物又は劇物を取り扱う場合、あらかじめ品目の登録変更が必要です。
	正	▪ 製造業者と輸入業者が、登録を受けた毒物又は劇物以外を取り扱う場合、あらかじめ品目の登録変更が必要です。
73 ページ ● 原子 [原子の構造]	誤	電子核中の陽子の数は、原子の種類ごとに定まっており、陽子の数を、その原子の原子番号といいます。水素Hは陽子が1個であるため、原子番号1となります。また、炭素Cは陽子が6個であるため、原子番号6となります。
	正	原子核中の陽子の数は、原子の種類ごとに定まっており、陽子の数を、その原子の原子番号といいます。水素Hは陽子が1個であるため、原子番号1となります。また、炭素Cは陽子が6個であるため、原子番号6となります。
125 ページ ▶▶ 正解【1】 [解説]	誤	3. 酢酸（弱酸）と水酸化ナトリウム（弱塩基）から、生じる塩（酢酸ナトリウムCH ₃ COONa）は、塩基性となります。指示薬は、変色域が塩基性にあるフェノールフタレインを用います。
	正	3. 酢酸（弱酸）と水酸化ナトリウム（強塩基）が中和反応をすると、正塩の酢酸ナトリウムが生じます。 $\text{CH}_3\text{COOH} + \text{NaOH} \longrightarrow \text{CH}_3\text{COONa} + \text{H}_2\text{O}$ CH ₃ COONaは、水溶液中で次のように完全に電離します。 $\text{CH}_3\text{COONa} \longrightarrow \text{CH}_3\text{COO}^- + \text{Na}^+$ 強塩基NaOHを構成するNa ⁺ は完全に電離するため、H ₂ Oとほとんど反応しませんが、弱酸CH ₃ COOHを構成するCH ₃ COO ⁻ は電離度が小さく、一部は水の電離で生じたH ⁺ と結びついてCH ₃ COOHに戻ります（塩の加水分解）。 $\text{CH}_3\text{COO}^- + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{CH}_3\text{COOH} + \text{OH}^-$ 加水分解により生じたOH ⁻ によってこの水溶液の液性は塩基性となります。従って指示薬は、変色域が塩基性にあるフェノールフタレインを用います。
166 ページ ▼ 官能基の種類	誤	ケトン基 -CO
	正	ケトン基 -CO-

頁数等	内 容	
249 ページ ◆ ^{よう} 沃化水素酸 HI aq	誤	②塩化第二水銀溶液を加えると、赤色の沈殿（沃化銀 AgI）を生じる。
	正	②塩化第二水銀溶液を加えると、赤色の沈殿（沃化第二水銀 HgI ₂ ）を生じる。
250 ページ キーワードによる暗記一覧 1 沈殿の色でおぼえる ▶▶ 赤色の沈殿	誤	^{よう} 沃化水素酸 HI aq + 塩化第二水銀溶液 → 沃化銀
	正	^{よう} 沃化水素酸 HI aq + 塩化第二水銀溶液 → 沃化第二水銀